

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学校の取組事例に係る調査研究 (概要) (案)

【調査の目的】

全国学力・学習状況調査において優れた結果を示した学校が、その結果に寄与したと考えている取組（指導方法や授業に係る校内研究など）を取りまとめ、「事例集」として公表し、各学校が今後の教育指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにすること。

【事例集の構成】

<総論（今回公表部分。以下参照）>

全国調査において特徴の見られた学校が、その結果に寄与したと考えている取組を俯瞰する。

<各論（別添サンプル参照）>：事例×16（小学校・中学校各8校）

- ①学校紹介
- ②全国学力・学習状況調査の特徴
- ③全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

なお、これらの取組に対する児童生徒等の反応を「教室からの声」として掲載。

※ 各論部分は現在各事例校において作成中であり、6月中を目処に取りまとめ予定。今回は、これらのうち総論部分を各論部分の完成に先立って公表するものである。

<総論>

第1節 授業における取組の傾向

- (1) 思考力・判断力・表現力等の育成
- (2) 基礎的・基本的な知識・技能の定着
- (3) 児童生徒の学習意欲を向上させる評価の工夫
- (4) 指導方法や指導形態の工夫

第2節 授業以外における取組の傾向

- (1) 教科以外での取組
 - 放課後や長期休業期間を利用した学習支援
 - 始業前における読書活動・学習活動
- (2) 授業研究の積極的な実施
- (3) 家庭や地域住民との連携・協力

第3節 事例校の取組の背景に見受けられた傾向

1. 校長や一部の教職員だけでなく、学校を挙げた取り組み
2. 児童生徒に分かりやすくない授業
3. 教師の話す言葉や校内の掲示物など、児童生徒の学習環境への配慮
4. 学校と児童生徒や保護者との強い信頼関係

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 学校の取組事例に係る調査研究 (総論部分・案)

1 研究目的

本調査研究は、平成19年度及び20年度の全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）において優れた成果をあげるなど特徴ある調査結果を示した学校を対象として、指導方法や授業に係る校内研究などその結果に寄与したと考えられる取組を取りまとめ、これを公表することにより各学校が今後の教育指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにすることを目的としている。

2 研究方法

国立教育政策研究所内に、関係の研究官、学力調査官等を構成員とする企画委員会を設置し、調査研究の企画・立案に当たった。

事例校については、全国調査における正答率や無解答率などが良好な学校を含む市区町村教育委員会に、設置する小学校又は中学校の中から全国調査の結果に寄与したと考えられる取組が行われている学校（原則として調査を受けた児童生徒数が20名以上のもの）を挙げてもらい、その中から企画委員会において16校（小学校8校、中学校8校）を選定した。

選定に当たっては、全国調査における特徴、取組の種類、学校種、所在地、学校規模（児童生徒数等）などを踏まえたほか、文教地区に所在する学校、へき地に所在する学校、商業地域に所在する学校、就学援助率の比較的高い学校など様々な学校が含まれるよう努めた。

このようにして選定した16の事例校に対し、当該学校のほか、設置者である市区町村教育委員会の協力も得ながら、企画委員会の構成員が学校への訪問調査を行い、事例集に掲載する内容を相談の上、原稿の作成を各学校（又は市区町村教育委員会）に依頼した。

今後は、事例校における取組を、次のような構成の事例集として取りまとめる予定である。

<総論（今回公表部分）>

全国調査において特徴の見られた学校が、その結果に寄与したと考えている取組を俯瞰する。

<各論（別添サンプル参照）>

①学校紹介

児童生徒数、教職員数・構成のほか、地域や学校の特色などを掲載する。なお、個別の学校名については掲載しない。（幅広い事例の提供がなされるよう、個別の学校名を公表しないことを前提として依頼したため）

②全国学力・学習状況調査の特徴

全国調査における当該事例校の特徴を具体的な数値とグラフによって掲載する。

③全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

事例校が全国調査の結果に寄与したと考えている取組を「授業における取組」「授業以外における取組」として掲載する。また、それらの取組に対する児童生徒等の反応を「教室からの声」として掲載する。

今回の資料は、上記のうち<総論>部分を、年度開始前に参照できるよう、<各論>部分の完成に先立って公表するものである。（なお、今後の<各論>部分の編集過程における整理により、事例集全体の公表までに加筆修正する可能性がある。）

なお、本調査研究の目的は、全国調査において優れた成果が見られた学校の取組を広く紹介することであって、これらの取組の効果を全国調査の結果によって裏付けることではない。

したがって、掲載していない取組の中にも、無数の優れた取組があると考えられるし、実際に事例集を手にした各学校において、これらの取組を取り入れようとする場合においても、地域や学校の特色などそれぞれの実情に合わせて創意工夫することが必要であることに留意されたい。

3 優れた成果が見られた学校の取組の傾向

ここでは、事例校に対する訪問調査などを踏まえて、全国調査において特徴の見られた学校が、その結果に寄与したと考^いえている取組を俯瞰する。

第1節及び第2節では、事例校に見られた取組の傾向を「授業における取組の傾向」「授業以外の取組の傾向」に整理し、若干の具体的な事例を交えながら紹介する。

また、これらの取組事例は、それぞれ単独ではなく、ていねいな授業、児童生徒や保護者との良好な信頼関係などと相まって効果を発揮しているものと思われる。このため、第3節において「事例校の取組の背景に見受けられた傾向」を紹介する。

なお、今回紹介する取組は、学校による取組が中心となっているが、研究指定事業や学生ボランティアの活用など、教育委員会をはじめとする行政の支援を受けて効果的に実施されているものもあることをあらかじめ付言しておく。

第1節 授業における取組の傾向

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむことを重視し、次のような取組を行っている事例校が見られた。

<事例1>

国語の授業において、児童同士の伝え合いの場を積極的に設け、一人一人の多様な考え方を引き出し、共通点や相違点から思考を深めさせている例。この際、生徒の積極的な参加を促すため、多様な考えが期待できる題材を選択したり、伝え方のモデル（教職員による模範ビデオなど）を提示したりするなどの工夫が講じられている。

<事例2>

算数の授業において、一つの公式（例えば、面積の求め方など）を学習した後に、条件や場面を変えて、その公式が成り立つかどうかを考えさせたり、具体的な数値を教師が設定するのではなく、児童自らが数値を設定して、その公式について考える経験を多くする試みにより、数学的な思考力・判断力を養う例。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能の定着

学習指導に当たっては、基礎的・基本的な知識・技能を習得させることが重要であるが、授業の時間配分に工夫を行うことなどによって、漢字や計算などの基礎的な学習を行う時間を計画的に確保することにより、これらの確実な定着を図っている事例校が見られた。

<事例>

毎時間の冒頭に、漢字などの学習に当てている例。これを家庭学習（宿題）などに関連付けながら第1学年時から継続して行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着につなげている。

(3) 児童生徒の学習意欲を向上させる評価の工夫

全国調査においても、国語や算数・数学の勉強が好きであると回答した児童生徒は、その教科の正答率も高い傾向にある。事例校においては、児童生徒の学習意欲を向上させるための取組として、児童生徒の評価について工夫している例が見られた。

<事例1>

定期テストの答案返却に当たり、単に素点や平均点を返すのみならず、標準偏差を考慮した教科ごとのスコアを返すとともに、これをもとに生徒自らがチャートを作成させることにより、生徒が、自らの学習の達成状況を客観的に把握し、自信を深められるようにしている例。

<事例2>

児童が授業時間中に達成感を感じることができるよう、机間指導により児童のノート等にマルやコメントを付すことを積極的に行っている例。

(4) 指導方法や指導形態の工夫

事例校では、指導方法や指導形態について次のような工夫がなされていた。なお、多くの事例校では、全国調査における「国語（算数・数学）の授業の内容はよく分かりますか。」という質問項目に対する回答が全国平均より顕著に良好である。

○指導計画について工夫を行っている例

<事例1>

単元ごとの指導計画とは別に、確実に身に付けさせたい力（例えば、「書く能力」や「思考力・表現力」など）に焦点を当てた年間指導計画を作成している例。事例校によっては、年間にとどまらず、複数年にわたる長期的な計画を立て、生徒の発達段階に即した系統的な指導を行っている例も見られた。

○学習方法の指導について工夫を行っている例

<事例2>

生徒に学習方法を指導するための小冊子を作成し、配布している例。小冊子には、教科ごとの学習に当たっての留意点とともに、年間指導計画の内容やその進め方、評価の観点などが明らかにされている。これにより、生徒は学習の目標を理解しながら、それを目指して、自ら学習を進められるようになる。

○板書について工夫を行っている例

<事例3>

授業の冒頭には授業のねらいを必ず掲げ、生徒が授業内容を見通せるようにするとともに、授業終了時には1枚の黒板に授業内容が構造的に表現されているよう板書の仕方を工夫し、生徒が学習内容を振り返れるようにしている例。

○ノート指導について工夫を行っている例

<事例4>

文や絵、図などを用いて、自らの考え方の過程が見えるようにノートをとるよう指導を徹底するとともに、担任のみならず、他の教員や大学生のボランティアなどの協力を得ながら、添削指導を行っている例。また、他の事例校では、模範的なノートを展示したり、教科通信で紹介したりしている例も見られた。

○効果的な指導形態を取り入れている例

<事例5>

少人数指導を実施するに当たって、対象教科を年間を通じて固定するのではなく、児童の習熟度に差が出やすい授業単元において実施するなど柔軟な対応を行っている例。この事例校では、加配教員だけでなく、教務主任も一部のコマを受け持つことにより取組を充実させている。

<事例6>

チームティーチングを実施するに当たって、教員間において指導内容や指導方法、それぞれの役割を事前に十分に話し合うことを徹底している例。この事例校では、同時に、チームティーチングをより効果的に行うための研修を実施している。

第2節 授業以外における取組の傾向

多くの事例校では、授業以外における取組も学力調査の結果に寄与したと考えている。

(1) 教科以外での取組

○放課後や長期休業期間を利用した学習支援

放課後や長期休業期間（夏季・冬季など）を利用して、習熟が遅れている児童生徒などに対し、個別に学習支援をしている事例校が見られた。その頻度は、毎日実施している学校から、定期試験前に実施する学校までさまざまであり、担任の教員だけでなく、複数の教員によって指導を行うなど学校全体で組織的に実施している例もある。

○始業前における読書活動・学習活動

朝の始業前の時間帯を活用して、次のような読書活動や学習活動に取り組んでいる事例校が見られた。

<事例1>

読書習慣の定着化や読解力の向上を目指して、自由読書のほか、音読や読み聞かせなど多彩な取組を実施している例。

<事例2>

学校図書室や学級文庫の充実などの読書環境の整備と併せて、児童が相互に勧めたい本を紹介し合うことなどにより、読書意欲を喚起している例。

<事例3>

漢字や計算のプリント学習などを短い時間、集中して取り組ませることにより、学習リズムをつくることや、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることなどを目指している例。

(2) 授業研究の積極的な実施

多くの事例校では、授業研究が積極的に実施されている。これらの学校では、思考力・判断力・表現力等の育成などの今日的な課題に焦点化した研究課題を、教科や学年の枠を超えて学校全体で設定し、頻繁に実施している傾向がある。

また、授業研究の一環として、次のような取組が行われている。

<事例>

- ・ 学校全体の研究課題をもとに、教員全員が個人テーマを設定し、その研究成果をまとめて冊子にし、校内で共有している例。
- ・ 教員同士で模擬授業を行ったり、グループで指導案を作成したりするなど、共同体制で授業づくりを行っている例。
- ・ 教員全員で年間数十件に及ぶ指導案を作成し、それを全員で共有している例。
- ・ 教員同士が、授業を評価する観点を明確化した上で、日ごろからお互いに授業を見合い、評価し合っている例。
- ・ 外部への公開授業を継続的に実施している例。
- ・ 校区内の小学校と中学校の円滑な接続を意識し、義務教育9年間を見通した共通の研究課題によって授業研究に取り組んでいる例。

これらの取組の多くは、国や地方の研究指定事業を受けて実施されており、教員の意識や研究の質を高めることにつながっている。また、年齢構成の偏りにより指導方法の継承が困難な学校では、若手教員を育成する重要な機会とも考えられている。

(3) 家庭や地域住民との連携・協力

事例校では、家庭や地域住民との連携や協力も、全国調査の結果に関係があると考えられている。

まず、保護者と協力し、宿題や自主的学習の形で家庭学習を定着させたり、生活習慣の確立を図ったりする取組が行われていた。ほとんどの事例校においても、全国調査の質問紙調査における家庭学習時間や生活習慣などの質問項目について良好な結果が示されている。

<事例1>

学年段階に応じた学習課題や家庭学習の目標時間、規則正しい生活習慣づくりのアドバイスなどを示した小冊子（「家庭学習の手引き」など）を作成し、生徒に配布するだけでなく、学校と保護者との懇談会などにおいても配布し、周知している例。

<事例2>

校外の検定などを生徒の目標として設定し、それに向けた家庭学習を促すノートを学校独自に作成することにより、家庭における自主学習を徹底させている例。

また、保護者や地域住民による直接的な支援も、これらの学校にとって大きな力になっている。

<事例1>

学校図書館について、保護者や地域住民のボランティアによる協力を得て、図書の本の整理や読み聞かせを行い、学習活動や読書活動をサポートしている例。

<事例2>

地域住民の協力を得て、農業や漁業等の体験学習や保育所・幼稚園との交流体験などを実施することにより、学習意欲を喚起しながら、地域の歴史や産業などと具体的に関連付けて学習させている例。

第3節 事例校の取組の背景に見受けられた傾向

本節では、具体的な取組ではなく、前節までに掲げた事例校の取組の背景に見受けられた傾向を掲げる。

第一に、前節までに紹介した事例が、いずれも校長や一部の教職員だけでなく、学校を挙げて取り組まれている点である。

ある事例校では、「読解力・表現力」を生涯にわたって学び続ける基盤ととらえ、校内研究の課題として設定し、国語のみならず全教科を通じてこれらの向上を図るなど、学校を挙げて取り組んでいる。

このように、現状に対する課題意識や教育理念・目標がしっかりと校内で共有され、校長をはじめとする管理職のリーダーシップのもとで、校内の教職員が一体となって取組を推進しようとする意気込みは、多くの学校で感じられた。このような一体感が、学校を挙げた取組を成功させているものと考えられる。

第二に、板書やノート指導、発問などをていねいに行い、児童生徒に分かりやすい授業が行われている点である。

板書やノート指導の工夫については第一節でも述べたが、発問についても、明確かつ的確に行うことにより、子どもたちの思考を深め、様々な考えを引き出すよう工夫されている。十分な教材研究や児童理解、生徒理解の上でていねいな授業を行い、児童生徒の学習内容の理解と思考を深めるとともに、学習意欲を高めることにつなげているものと思われる。

第三に、児童生徒の学習環境に配慮がなされている点である。

例えば、ある中学校では、教員の話す言葉を、生徒を取り巻く言語環境の重要な一部ととらえ、これが生徒の論理的な思考力に影響を与えると考えて、教員が普段から筋道を立てて分かりやすく話すよう努めている。

また、多くの事例校では、児童生徒の作品などの掲示物が教室や廊下に整然と掲示されており、事例校の中には、掲示物に係る工夫自体を学校全体の計画に位置付け、言語環境・美的環境の整備の一環として取り組んでいる学校も見られた。

これらの児童生徒の学習環境に対する配慮も、児童生徒の学習意欲を喚起する一つの要因となっているように感じられた。

第四に、学校と児童生徒や保護者との間に強い信頼関係がある点である。

多くの事例校では、これまでに述べてきたような優れた取組に努めるとともに、これらを児童生徒や保護者に対して積極的に発信することなどにより、その信頼を得ることに成功している。

事例校のうちの一つで、経済的課題があるとされる地域に所在する学校の校長は、「厳しい環境の中でひたむきに信頼される学校づくりをめざしてきた。1つうまくいくと連鎖的に結果が向上してきた。結果が良くなるとますます信頼が高まってきた」と語っていた。

児童生徒や保護者との信頼関係が構築されることによって、児童生徒は教師の指導内容等をしっかりと受け止めようとし、多くの保護者は学校の取組に協力的になり、そして、これらが教職員の意欲を高め、資質を向上させる、といった好循環をもたらしているものと考えられる。

【別添サンプル】注：事例集の編集過程の整理により、加筆修正の可能性あり。

読解力・表現力を育てる指導の実践例

国語の記述式問題の結果が顕著に良好な中学校の例

学校紹介

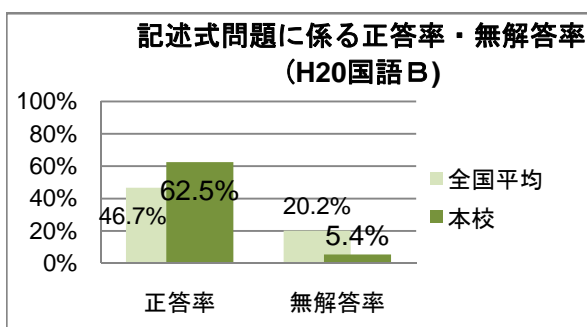
学校種	中学校（平成4年開校（近隣2校の統合による。））		
校区内小学校	5校		
学級数 生徒数	計6学級 （約130名）	第1学年 1学級（約30名） 第2学年 2学級（約50名） 第3学年 2学級（約50名） 特別支援学級 1学級（1名）	
教職員数	21名	校長・教頭	各1名
		教諭	14名（うち教務主任、研究主任、 養護教諭、栄養教諭各1名）
		非常勤講師（英語） 指導助手（英語） 事務職員 管理用務員 スクールカウンセラー	各1名
備考	へき地教育振興法に基づくへき地学校1級		

（学校の特色）

300平方キロメートルを超える非常に広い校区を持ち、その95%を山林が占めるへき地学校である。生徒の7割は、朝夕の1日2回発着する路線バスによって通学している。

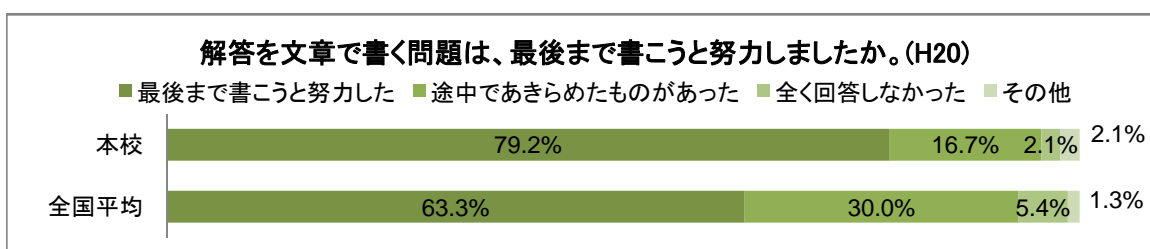
過疎化が進む一方で、地域のコミュニティがしっかりと存在しており、地域住民が図書館指導員として参加するなど、地域は学校に非常に協力的である。

全国学力・学習状況調査の特徴



国語・数学ともに調査結果は良好であるが、特に記述式問題における正答率が高く、無解答率も低い水準となっている。

また、生徒に対する質問紙調査においても記述式問題を最後まであきらめずに解答しようと努力した生徒の割合が顕著に高い。



授業における取組

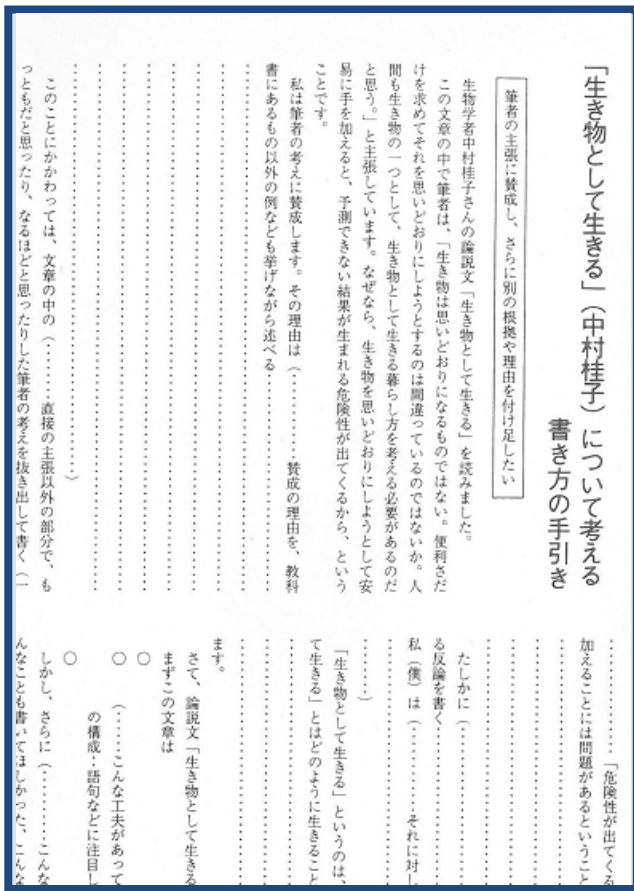
読解力・表現力を高めるための指導の充実・継続

○「書き方の手引き」の活用による読解力・表現力の向上

中学生に多くみられる課題として、根拠を明確にして論理的に書くことができないことがあげられる。本校では、この課題を克服するため、次のような「書き方の手引き」を作成し、これに基づいた指導を行っている。

「書き方の手引き」とは、プリントに基本的な論理構成の骨組みを記載しておき、生徒に記述させた部分、例えば、自分がその立場に立つ理由や根拠、本文に対する疑問点や批判点、文章の結論部分などを空欄にしたものである。筆者の主張に「賛成」「反対」「一部賛成・一部反対」のどの立場からでも自分の意見を展開できるように、3種類の「手引き」を作成している。

この「手引き」に沿って記述することで、生徒が筆者の考えや文章の書き方についての思考や考察を深めることができる。



△「書き方の手引き」の例

筆者の主張に対して賛成・反対・一部賛成一部反対のどの立場からも論を展開できるように、3種類の「手引き」を作成。



筆者の主張



賛成

一部賛成・一部反対

反対



立場によりグループを分け、発表・質疑へと展開

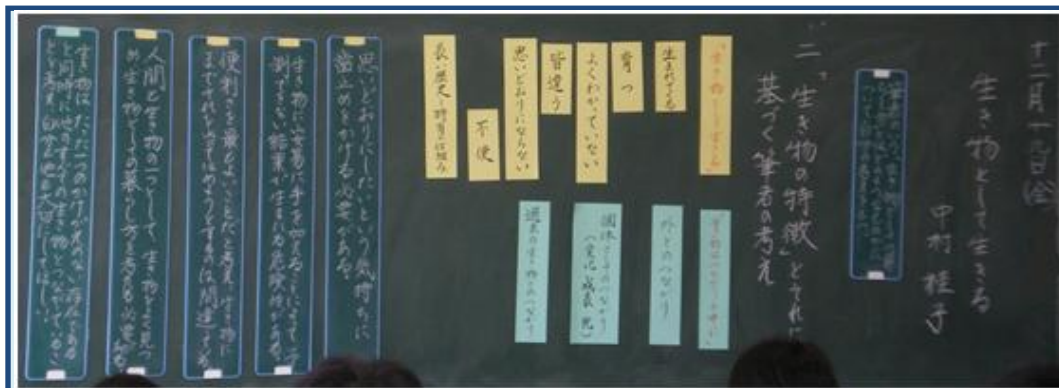
この指導を行う際には、中学生としての限られた見聞や体験、あるいは単なる感覚で、根拠なく批判することがないように、筆者の主張の理解を補うための資料や、筆者と異なる立場の資料等、複数の補助資料を準備し、これらを読ませた上で自らの立場を決定させることが重要である。

また、発展的な指導として、同じ立場をとった者同士でグループを作らせ、それぞれの文章を読み合わせた後、代表者による発表とグループ相互の質疑で、考えをさらに深めさせることが望ましい。

読解力・表現力を高めるための指導の充実・継続（つづき）

○生徒に筆者の考えを整理させることを意識した授業

筆者の考えを整理させることにより、それに対する自分の考えを持つことができるようになる。（板書は、以下のように生徒が「見通しと振り返り」を持てるように配慮している。）



○3年間を通じて書く力を基礎から育てるための指導計画の作成

＜3年間の指導計画（赤字は中心となる単元）＞

身に付ける力	取り扱う単元・教材
身近なところから題材を見つけ、適切に場面を切り取り、経過に従って生き生きと書く力	1年 体験を伝え合う 3年 万葉・古今・新古今の鑑賞文 3年 卒業論文
伝えたい内容を相手に分かりやすく、正確に書く力	1年 分かりやすく説明する 2年 調べたことを正確に伝える 3年 新聞の特徴を生かして書く
広い範囲から題材を見付け、根拠を明らかにしながら自分の意見を論理的に書く力	2年 根拠を明らかにして書く 3年 説得力のある文章を書く
卒業までの経験などから題材を見つけ、事実の説明に、新たな知識や自分の意見を織り交ぜながら、首尾一貫した文章を書く力	3年 卒業論文



これに基づき
各単元の
指導計画を作成

読解力・表現力の基礎となる知識や教養の育成

○新聞の記事やコラムを用いた学習

新聞の記事やコラムを教材として問題を作り、宿題とし、授業の冒頭、短時間、答え合わせと発表をさせている。

問題は、その記述内容や筆者の考えを問う短答式の問題を数問と、100文字程度で感想や意見を書かせる記述式の問題を1、2問程度出題している。

本校では、これを第2学年2学期から毎時間実施しており、生徒は卒業までに100枚以上のコラムを読むことになる。

これにより、国語の知識を確かなものにするばかりでなく時事問題に関心を持ち、考える習慣を付けたりすることにつながるなど、国語力を高める上で有効な場となる。



○毎時間、授業冒頭における漢字テストの実施

1年時から、毎時間、授業の最初に漢字テストを実施している。宿題として市販の漢字ドリルを計画的に学習させ、その中から毎回5問出題し、確実に定着させている。

全教科を通しての読解力・表現力の向上

○各教科について再整理した「読解力」「表現力」を踏まえた指導方法の工夫改善 読解力・表現力を教科ごとに再整理（数学科の例）

- ①与えられた条件を正確に読み取る能力
- ②与えられた条件を図やイラスト・グラフなどに表す能力
- ③自らの思考過程を文章に表す能力
- ④自らの考えや意見を、根拠に基づいた分かりやすい意見として伝える能力
- ⑤他者の意見を聞いて、自分の思考を検証し高める能力

これを踏まえ、指導方法を工夫改善

- 教師からの発問は、簡潔で明瞭な指示や説明を心がける
- 各授業に生徒自身が考える場面（山場）を設定し、しっかり考える時間を保障する
- 生徒の考えを発表させ、その説明を聞かせる場面を意識的につくる
- 生徒が自信を持って発表できるよう、ノートに書かせる等のステップを踏ませる
- その場面にあった声量での発言を意識させる
- 筋道を立てて解答ができるように過程を重視する

具体的な指導方法の例

◇式の計算や方程式等の計算問題

- ・自分が考えた計算の仕方を、筋道立てて文章に表したり説明したりさせる
- ・友だちの発表を聞いて、自分の考えと比較させる

◇方程式などの文章問題や関数などの数量関係

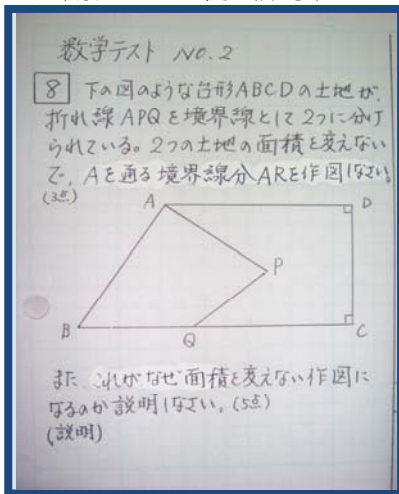
- ・自分の考えをノートに書いて発表させる
- ・文章問題を作成し、相互に解き合い、説明させる

◇図形などの論証

- ・問題文に書かれている仮定や条件、結論などを明らかにさせる
- ・筋道立てて考えたことを、記号などを利用して簡潔に論理的に書かせる

○定期テストや小テストにおける工夫

▽定期テストの例（数学）



・考え方の過程を重視

「なぜそのように考えたのか」「どのようにして、その結果に至ったのか」「結果に至るまでの過程で、どのような間違いをしてしまったのか」等々が明らかにできるような問題を取り入れている。

・思考力や表現力の伸張

与えられた条件を基に、自らが文章問題をつくるなどの作問活動を取り入れている。

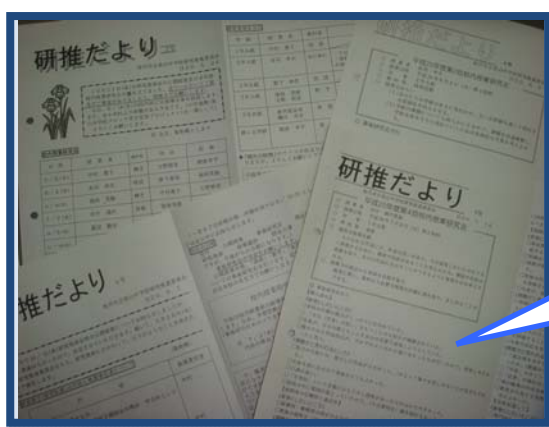
授業以外における取組

授業研究を中心とした校内研究

本校では、生涯にわたって学び続ける基盤としての「読解力」「表現力」の育成に視点を当てた研究実践を進めているが、平成 19 年度からは、それらの力を高める授業作りに重点を置き、国語科のみならず、全ての教科において「読解力」「表現力」の育成を目指し、研究実践に取り組んでいる。

読解力・表現力の育成を意識した学習指導案を作成し、これに基づく授業を踏まえた授業研究会を年間8回実施している。

また、市の研究指定（小中一貫教育）などを活用し、校区の小中学校との授業公開や研究協議を通して、指導内容・方法の密接な連携を図っている。



授業研究会で明らかになった成果と課題を整理し、「研推だより」に載せて全体のものにする。

読書指導の充実

意欲的な読書を促すため、次のような環境整備や図書館教育の充実を図っている。

①全校での朝読書

読書環境を整える意味も含めて学級文庫を設置、読み終えた本は読書記録カードに記入

②読書の集い（読書の薦めをねらいとした全校集会）

「子ども読書の日」など年3回実施。教師による本の紹介、地域の朗読ボランティアサークルによる読み聞かせ、市の図書館職員等によるブックトークなど。

③本の読み聞かせ

各クラス年3回実施、秋の読書週間の朝読書の時間に、教師や図書館指導員が対応して読み聞かせを行う。

④図書館指導員の配置

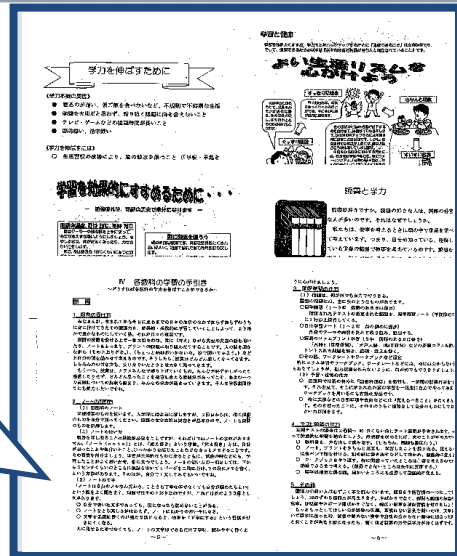
教育委員会が有償ボランティアの形で地域住民より募集。本校には一人が配置され、図書室で本に関する生徒の相談にのっている。また、図書室内の整頓が行き届き、レイアウトの工夫などもされるようになった。



家庭との連携

○学校作成の「学習の手引き」の活用

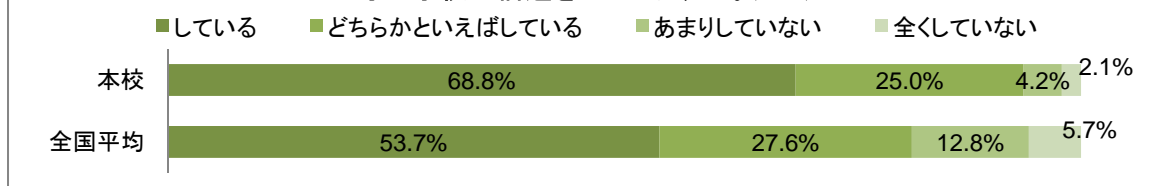
- ・ 教科ごとの日常的な学習の手引き（授業の受け方、ノートの取り方、家庭学習の方法、定期テストに向けた計画的な学習のすすめなど）
- ・ 規則正しい生活習慣づくりのアドバイス
- ・ 日常的な読書の奨励



○宿題の徹底

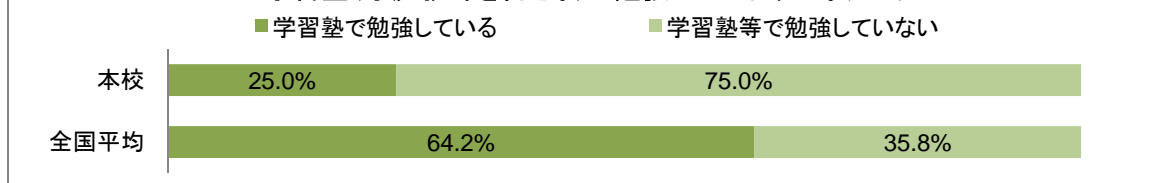
いずれの教科においても、原則として宿題を出すとともに、自主学習ノートを持たせ、自らのテーマを決めて学習させることなどに取り組みさせている。宿題をやってこなかった生徒に対しては、放課後に時間を設け、確実に提出するよう指導することで、習慣化させている。

家で学校の宿題をしていますか。(H20)



(参考)

学習塾(家庭教師を含む。)で勉強していますか。(H20)



教室からの声

- ・ …自主学習ノートを楽しみながら取り組もうとするようになった。いやな気持ちで取り組んでいたころより中身が濃いものになった。また、毎週きちりやって提出するというのを続けるようになってからは、家庭学習の習慣が付き、一日一日が充実するようになった。(3年女子)
- ・ 僕は1年生のころからコラム学習がしたかったと思っている。毎回コラムを読むことによって、文章を読む力が身に付いたり、問題を解くことで国語の学習にも役立つ。また、感想を書くことで、作文などの文章を書くときにも役立つ。(3年男子)
- ・ コラム学習では、文章の読解力・漢字力をしっかり身に付けることができる。また、新聞に掲載されている文なので、筋も通っており、毎回読むことで、自分が筋道立てた文章を書く際のヒントになる。じっくり考えなければならない時もあり、決して簡単ではないが、続けることで確実に国語力を高められるものだと私は考えている。(3年女子)
- ・ (朝の読書について) …第二に、国語力が付いたことである。多種多様な本を読んだことで、文章を読み取る力が劇的に伸びたと思う。この力は国語だけでなく、他の教科にも生かすことができる。…たかが15分、されど15分なのだ。(3年女子)
- ・ 国語の学習は飽きなかった。どんな時も自力で考え、教え合い、一つではない答を導き出せたからだ。自主学習ノート、漢字練習、コラム…毎日の大量の宿題も私の読解力や書く力を高めてくれる良い学習だった。中学校3年間の国語の学習、それは私の生きる力になっていると思う。(3年女子)